

自己評価報告書

(令和7年度 学校評価)

学校法人山口学園
長崎公務員専門学校

※ 今年度の実績は全て令和7年12月25日時点のものとなります。

1. 教育理念・目的

本校は、「知識と知恵」を育み、「人間らしさ」と「タフさ」を尊重する教育を通じ、優れた公務員を輩出することを目的とし、活力ある社会の発展に寄与することを目指します。

2. 育成人材像

本校では、以下の特性を持った人材を育成します。

- ・ 知識を実践的に活用できる力に加え、困難に直面しても柔軟に対応できる力
- ・ 継続的な成長を追求する姿勢とともに、逆境を乗り越える粘り強さ
- ・ 公務員としての倫理観と責任感を持ち、他者との共感を大切にす姿勢
- ・ 地域社会に積極的に貢献する意識と行動力を持ち、挑戦し続ける精神
- ・ 社会人基礎力を備えた、コミュニケーション能力やチームワークを重視する姿勢 に加え、多様な価値観を受け入れ協働できる力

3. 教育目標

本校の教育目標は、以下の3つの柱で構成されます。

- ・ 知識の習得と活用：公務員としての一般教養に加え、法律、制度、政策に関する専門的な知識を習得し、変化や困難に対応できる知恵を身につけること。
- ・ 人間力の向上：共感と思いやりを持った人間関係を築き、協力し、成長し合う姿勢を養うとともに、逆境にも立ち向かう精神的なタフさを培うこと。
- ・ 社会人基礎力の育成：社会人として必要なコミュニケーション能力や問題解決力を育て、プレッシャーの中でも冷静に判断し行動できる力を養い、地域社会に責任を持って貢献する姿勢を育むこと。

4. 運営方針

本学の運営方針は、以下の各項目を取組むに基づいて展開される。

- ・ 教育環境の整備
 - 学生が主体的に学び、成長できる教育環境を整備します。
 - 教室や学習スペースの改善、オリジナルテキストの見直しを行い、質の高い学習環境を提供します。

- ・ 公務員試験対策プログラムの充実
 - 公務員採用試験の最新の出題傾向、学習効果等をもとに最適化したカリキュラムと時間割を組み、学生の試験対策を徹底的にサポートします。
 - 模擬試験を定期的実施し、学生自身の振り返りを促します。
 - 現職の公務員による業務説明会を学内で実施し、職業探求・自己分析を促し、実務に活かせる思考力と対応力を育成します。

- ・ 社会人基礎力の強化
 - コミュニケーション能力や問題解決力を高めるためのグループ活動を定期的実施します。
 - 社会人として必要なマナーやスキルを身につけるために、日常から生活指導を行い、セミナーを開催し、職業意識を醸成します。

- ・ 地域との連携強化
 - 地域住民との交流イベントやボランティア活動を通じて、学生が地域に根ざし、社会の変化に適応しながら主体的に貢献できる人材となるよう支援します。

- ・ 教職員の専門性向上
 - 教職員に研修やスキルアップの機会を提供し、教育内容や指導方法の質を継続的に改善し、時代の変化に対応できる教育を実践します。
 - 教職員間の情報共有や連携を強化し、教育の一貫性を保ちながら、学生が困難を乗り越えられるようサポートする体制を構築します。

- ・ フィードバックと改善のプロセス
 - 学生や卒業生からのフィードバックを積極的に取り入れ、常に進化し続ける教育プログラムを提供します。

5. 本年度の重点努力目標

- ① 一次合格率の向上
- ② 昼間部入学生(令和6年11月・令和7年4月見込)の確保
- ③ 進路未決定者の継続率向上
- ④ SPI対策カリキュラムの構築(令和7年11月募集から)

6. 評価項目別取組状況

<p>評語について</p> <p>A 十分達成(達成率90%以上)</p> <p>B 概ね達成(達成率90%未満～70%以上)</p> <p>C 取り組まれているが成果が十分でない(達成率70%未満～50%以上)</p> <p>D 取組が不十分である(達成率50%未満)</p>

大区分	評価項目	評価指標	判断理由	根拠資料	評価案
教育 理念 ・ 目的 育成 人材像	1-1 学校の教育理念・目的、 教育目標、育成人材像 を教職員は理解している か。	<input type="checkbox"/> 教育理念・目的、教育目標、育 成人材像は体系化されており、文 書などによって明確に定めている か。 <input type="checkbox"/> 育成人材像は、本学の理念・目 的及び、主な官庁の求めるものに 沿っているか。 <input type="checkbox"/> 教育理念・目的、教育目標、育 成人材像を教職員は理解している か。	<p>・教育理念等の趣旨および本校の存在意義と社会における役割を踏まえた新たな教育理念体系を定め、令和7年10月1日から施行している。また、新たな教育理念体系については、文書で明確に定めており、学生にも文書で明示している。</p> <p>・教職員アンケートにおける「教育理念・目的、教育目標、育成人材像を教職員は理解しているか。」という設問に対し、9名中9名(100%)の教員が「強くそう思う(3名)」「そう思う(6名)」と回答しており、このことを理解していると言える。</p>	<p>学則 教育理念体系</p> <p>長崎県が求める人材</p> <p>教職員アンケート</p>	A
学校 運営	2-1 運営方針に沿った、学校 運営がなされているか	<input type="checkbox"/> 毎年度、運営方針に沿った事 業計画書を作成しているか。 <input type="checkbox"/> 事業計画に沿った学校運営が なされているか。	<p>・毎年度、運営方針に沿った事業計画書を作成している。【前年度と同様】</p> <p>・事業計画に沿った学校運営を行いながら、適宜見直しも行った。特に、大きな課題であった「教養重点科新2年コースの構築」においては、その目的の一つでもある社会人基礎力育成のため、様々な体験型学習をオムニバス形式で盛り込んだ「総合学習」を構築した。また、「SPI対策カリキュラムの構築」においては、現在検討している上級科(昼間部・夜間部)のカリキュラム改正の中で、夜間講座にSPIコースの新設を予定している。</p>	<p>令和7年度事業計画 書</p> <p>上級夜間講座新カリ キュラム</p>	A

大区分	評価項目	評価指標	判断理由	根拠資料	評価案
	2-2 業務の効率化が図られているか。	<input type="checkbox"/> 業務の効率化が図られているか。	<p>・教職員アンケートにおいては、「業務の効率化が図られていると感じるか」という設問に、9名中5名(55.5%)が「強く思う(2名)」「そう思う(3名)」と回答しているため、業務の効率化については、取り組まれているが、成果が十分でない結果となった。</p> <p>・新しい試験制度、学生数の減少といった課題がある中で、今年度は、企画提案書による提案は0件であったが、職員会議での提案を含めると全体で35件の提案があり、DXを活用した学生の自己分析サポートツールの作成など、33件を実施することとなった。中には業務の効率化に繋がるものもあったが、新カリキュラムの設置などの新たなサービスの提供は、全体としての業務量を増加させることにもなった。</p>	<p>教職員アンケート</p> <p>企画提案実績一覧</p>	B
	2-3 人事や給与に関する制度は整備されているか	<input type="checkbox"/> 人事や給与、就業規則等の学内の規程・規則については明確化し、教職員が見えるように公表しているか。 <input type="checkbox"/> 人事や給与、就業規則等の学内の規程・規則については、必要に応じて更新するなど、適切に運用しているか。	<p>・就業規則、人事考課規程は明確に規定されており、教職員が誰でも閲覧できる共有フォルダ内に保管し、公表している。【前年度と同様】</p> <p>・人事考課については「人事考課票」により、評価基準を具体的に記載することで、考課を客観的に行えるようにしている。また、就業規則においても適切に運用している。</p>	<p>就業規則</p> <p>人事考課規程</p> <p>人事考課票</p>	A
	2-4 学生、教職員からの満足度は目標値を達成することができたか。	<input type="checkbox"/> 学生満足度100%を達成することができたか。 <input type="checkbox"/> 教職員満足度100%を達成することができたか。	<p>・卒業生に対するアンケートにおいて、「入学してみてこの学校はどうでしたか?」という設問に70名中69名が「大変良かった(48名)」「良かった(21名)」と回答しており、満足度は98.6%で目標を達成することはできなかったが、これまで通り高い評価を得ることができた。</p> <p>・教職員アンケートにおいて、「現在の職場で働いていることに満足している」という設問に9名中8名が「強く思う(2名)」「そう思う(6名)」と回答しており、満足度は90.0%と目標を達成することはできなかったが、これまで通り高い評価を得ることができた。</p>	<p>学生アンケート</p> <p>教職員アンケート</p>	A

大区分	評価項目	評価指標	判断理由	根拠資料	評価案
	2-5 保護者・地域からの信頼度向上に繋がる取組ができたか。	<input type="checkbox"/> 保護者・地域からの信頼度向上に繋がる取組ができたか。	・保護者に対しては、模擬試験の結果報告は全ての学科で、動画による保護者向け進路ガイダンスおよび三者面談は高卒程度の学科で、毎月の出欠状況報告は教養重点科にてお知らせするとともに、学習面、生活面において問題があった場合には、個別に保護者にも情報を提供するなど信頼度向上に繋がる取組ができています。地域に対しては、ボランティア活動の奨励・支援を行うとともに、高校が行うキャリア教育・職業教育の取組(職業別体験ガイダンス)にも協力するなど、信頼度向上に繋がる取組ができた。 (ボランティア活動実績) ・清掃ボランティア 15回:参加人数約60人 (ガイダンス実績) ・職業理解 21回:参加人数215人	保護者向け進路ガイダンス ボランティア活動状況一覧 掃除ボランティア募集 高校進路ガイダンス参加一覧	A
	2-6 教育活動に関する情報公開がなされているか。	<input type="checkbox"/> 教育活動に関する情報公開がなされているか。	ホームページにおいて各年度の事業報告書を掲載し、教育活動に関する情報を公開している。	ホームページ(法人情報)	A
教育活動	3-1 教育理念・目的、教育目標に沿った教育課程を編成・実施しているか。	<input type="checkbox"/> 教育理念・目的、教育目標を達成するための教育課程を編成・実施しているか。 <input type="checkbox"/> 近年の試験動向を踏まえ、SPI対策カリキュラムを構築・実施しているか。 <input type="checkbox"/> 課程修了の認定基準および各科目の到達目標、成績評価の基準について、学生の理解を得ているか。	・様々な学生を受け入れるため、昼間部および夜間部にそれぞれ複数の学科を設け、学生が希望する進路への合格を支援できる教育課程を編成・実現している。【前年度と同様】 ・現在検討している上級科(昼間部・夜間部)のカリキュラム改正の中で、夜間講座においては、SPIコースの新設を予定している。 ・学生に対し学則を示すことに加え、入学時オリエンテーションやホームルーム等でも説明・周知を図っている。その結果、学生アンケートにおける「課程修了の認定基準について理解していた」という質問に対し、70名中66名(94.3%)の学生が「強く思う(20名)」「そう思う(46名)」と回答しており、高く評価されている。	上級夜間講座新カリキュラム 学生アンケート	A

大区分	評価項目	評価指標	判断理由	根拠資料	評価案
	3-2 教育理念・目的、教育目標を達成するために教職員の資質能力向上や授業改善が図られているか。	<input type="checkbox"/> 教職員に対し「目指すべき職員像」により、求められる資質能力が示されているか。 <input type="checkbox"/> 教職員の資質能力向上のための取組が行われているか。 <input type="checkbox"/> 授業評価の実施・評価により改善が図られているか。	<p>・「目指すべき職員像」により、具体的な資質能力を示すことができている。【前年度と同様】</p> <p>・教職員アンケートにおける「教職員の資質能力向上のための取組が行われていると感じるか」という質問に対し、9名中4名の教員が「そう思う」と回答し、全体の44%にとどまった。</p> <p>・教職員アンケートにおける「授業評価の実施・評価により改善が図られていると感じるか」という質問に対し、9名中7名(78%)の教員が「そう思う」と回答した。</p>	教職員アンケート	B
学修成果	4-1 昼間部において目標とする学修成果が達成できたか。	<input type="checkbox"/> 一次合格率(一次合格者数/受験者数※夏期講座生除く)100%は達成できたか。 <input type="checkbox"/> 突破率(最終合格者数/1次合格者数※夏期講座生除く)90%は達成できたか。	<p>・昼間部全体の一次合格率は98.1%である。昨年までの取組に加え、模擬試験で基準点に達しなかった学生に対し、面談を通じて学習状況および生活状況の確認を行った。また、学生が質問や相談をしやすい環境づくりの一環として、各教員が確実に対応できる時間(オフィスアワー)を設定し、学生へ周知した。また、SPI採用試験対策として、SPI模擬試験の回数増、上級科における週末テストでのSPI実施、SPI対策アプリ(言語のみ)の開発・提供など、公務員採用試験の変化に対応してきた。結果的には全体では目標達成には至らなかったものの、一部のクラスでは、目標を達成することができた。 ※12月25日時点の合格率</p> <p>・昼間部全体の突破率は75.3%であり、目標値90%に対し、83.7%の達成率である。昨年までの取組に加え、入学試験時の面接で評価の低い学生に対するメンター制度の拡充の一環としてグループワークを実施し、全体の底上げを図ったが、意欲の低い学生への指導など課題も大きかった。 ※12月25日時点の突破率</p>	クラス別合格実績	A

大区分	評価項目	評価指標	判断理由	根拠資料	評価案
学生支援	5-1	<p>公務員採用試験に関する支援体制は整備され、学生の公務員志望意欲の醸成、職業理解に繋がられているか。</p> <p><input type="checkbox"/>受験に関する支援体制を整備されているか。</p> <p><input type="checkbox"/>支援体制は学生の公務員志望意欲の醸成、職業理解に繋がられているか。</p>	<p>・学生が携帯端末などを用いてインターネット上で試験日程や願書案内状況、申込締切日などを随時確認できるようにしており、近年採用官庁が増えているSPI試験に対する対策で学生が気軽にスマートフォンで演習できるアプリの開発などを行ったりと、受験支援体制を整備し運用している。学生アンケートにおいては「採用試験に関する説明は分かりやすく、指導も充実していた」という質問に対して、70名中68名(97.1%)の学生が「強くそう思う(52名)」「そう思う(16名)」と回答し、高く評価されている。</p> <p>・官公庁ガイダンスを実施し、合計23回、のべ303名の学生が参加した。官公庁ガイダンス実施後の学生への聞き取りでは、学習意欲の高まりや志望官庁への理解が進んでいる。参加人数においても昨年222名から300名と35%も増加しており、学生の意欲が上昇している。</p>	<p>学生アンケート</p> <p>官公庁ガイダンス実施一覧</p>	A
	5-2	<p>学生相談に関する体制は整備されているか。</p> <p><input type="checkbox"/>学生に対して、相談しやすい環境を作っているか。</p> <p><input type="checkbox"/>相談記録を保存・情報共有しているか。</p> <p><input type="checkbox"/>配慮希望者に対する支援体制は整備されているか。</p>	<p>・悩みや困りごとは担任が聞き取り、直接は言いにくい事などにも対応するため、意見箱を設置しており、学生アンケートにおいては「学校へ相談しやすい環境が作られており、適切な対応が行われた」という質問に対して、70名中67名(95.7%)の学生が「強くそう思う(41名)」「そう思う(26名)」と回答し、高く評価されている。また、教職員が必ず職員室にいる時間(オフィスアワー)を掲示、相談したいと思ったときに希望の教員に相談しやすい体制を作った。</p> <p>・これまでもWordにて相談記録を保管してきたが、入力と閲覧に手間がかかっていたことから、スプレッドシートでの管理に変更し、よりリアルタイムで情報の共有が可能になった。</p> <p>・入学時の配慮希望申請書を基に支援を行う体制は整備されている。なお、昨年度に続き、今年度の支援対象者はいなかった。(昨年度、一昨年度0名)</p>	<p>学生アンケート</p> <p>相談記録一覧</p>	A

大区分	評価項目	評価指標	判断理由	根拠資料	評価案
	5-3 長欠及び成績不振による退学率の低減が図られているか。	<input type="checkbox"/> 長欠及び成績不振による昼間部退学率3%以内は達成できたか。 <input type="checkbox"/> 長欠及び成績不振による退学者数、並びにその要因、傾向、指導の経過を把握し、退学率の低減が図られているか。	<p>・退学者は令和7年度昼間部入学者※106名に対し、14名である。その中で、長欠および成績不振、民間へ進路変更に起因した退学者数は10名で、退学率は9.8%であり、前年度より6.5ポイント増加した。特に退学者10名のうち、精神的な体調不良による出席日数不足が8名と前年度より7名増加している。 ※令和6年11月及び令和7年の入学生・編入学生</p> <p>・必要に応じて対象の学生と面談を行い、記録を残して、退学者数やその要因や傾向、指導の経過を把握し、共有している。職員が一丸となり退学率の低減に努めている。欠席が続いた学生には電話連絡を行い、状況の確認、必要であれば保護者との連絡を密にし保護者との面談も行っている。また日数不足で卒業が厳しい学生にも注意喚起の連絡も行うようにし、学生のサポートに努めている。</p>	退学者一覧 相談記録一覧	B
	5-4 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	<input type="checkbox"/> 学校独自の経済的支援制度を整備しているか。 <input type="checkbox"/> 学外の経済的支援制度を学生に情報提供する体制が整っているか。	<p>・校納金の分割納入制度があり、制度の利用者は30名(申込者30名)である。 ・日本学生支援機構の奨学金を案内しており、利用者は合計42名である。</p>	授業料分割納入実績一覧 日本学生支援機構奨学金利用者数	A
	5-5 進路未決定者の継続率は目標値を達成できたか。	<input type="checkbox"/> 継続率(各時期において転学科・再入学した学生数の総和)／(各時期においてその時点で就職先から内定(最終合格含む)を得ていない卒業・修了見込者数の総和)60%を達成することができたか。	<p>・対象者数137名に対して継続者数は69名で、継続率は50.4%であるため、昨年度より若干上昇したが、目標の60%に対する達成率は83.3%である。</p>	継続率	B
	5-6 卒業生への支援体制はあるか。	<input type="checkbox"/> 卒業生についても公務員採用試験に関する支援体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/> 就職後の悩み、相談に適切に対応しているか	<p>・卒業生への公務員試験支援として、模擬試験の案内やオンラインでの情報提供、担任による個別連絡を継続するなど支援体制はできていた。結果として、今年度は自学により公務員合格を目指した9名全員が1次試験で不合格であった。</p> <p>・就職先での悩み、不安などの個別相談に対応している。【前年度と同様】</p>	過年度卒業生受験結果	A

大区分	評価項目	評価指標	判断理由	根拠資料	評価案
教育環境	6-1	<p>施設・設備は、学校の教育理念・目的、教育目標を達成するためのものとして相応しいものになっているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 自習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 学校の教育理念・目的、教育目標を達成するために、施設・設備の維持・改修を図っているか。</p>	<p>・土日、放課後に利用できる自習室を整備しており、学生アンケートにおいては「自習室の開放など、自習するための環境が整っていた」という質問に対して、70名中69名(98.6%)の学生が「強くそう思う(43名)」「そう思う(26名)」と回答しており、高く評価されている。</p> <p>・施設・設備を管理し、必要に応じて改修を行った。学生アンケートにおいては「学校の施設・設備は十分に整っていた」という質問に対して、70名中67名(95.7%)の学生が「強くそう思う(36名)」「そう思う(31名)」と回答しており、高く評価されている。</p>	<p>学生アンケート</p> <p>設備更新管理表</p>	A
学生募集	7-1	<p>学生募集活動が適切かつ効果的に行われているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 資料請求や説明会、ガイダンス等への参加を行った入学検討者を本学への入学に繋げられたか。</p> <p><input type="checkbox"/> 市場に対する募集活動が適切かつ効果的に行われているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 高等学校等接続する機関との間で、必要な情報共有が行われているか。</p>	<p>・学校説明会参加者が本学への入学に繋がった割合(参加者出願率)は、54.2%であった。また、近年では特に大卒事務、大卒公安の参加者が少なくなっていることから、次年度に向けて、大卒公安については個別対応のみとし、高卒程度・大卒事務については実施の時期について再度検討した。</p> <p>・学校説明会参加者が説明会の開催を認知した主な方法は、①ホームページ(55.6%)、②家族・知人などからの情報(5.6%)、③チラシ(16.7%)、④テレビCM(11.1%)、⑤SNS(Instagram) 3.3%⑥学校の先生のすすめ(1%)等となっている。 このうち、本校の直接的な発信による方法(②⑥以外)は93%、約9割を占めており、市場に対する募集活動は適切かつ効果的に行われている。</p> <p>・高等学校等接続する機関と連携を図りながら、機会を設け、積極的に学生等に情報提供を行い、必要な情報の共有を行った。特に高校ガイダンスの参加回数は前年度の10回から大幅に増加した。 (参考)ガイダンス(学校説明会) ・高校 参加回数 32回/参加人数 460人 ・大学 参加回数5回/参加人数38人</p>	<p>説明会等参加者と出願率</p> <p>学校説明会の開催を知った手段について</p> <p>高校進路ガイダンス参加一覧</p> <p>大学訪問・進路ガイダンス(説明会)一覧</p>	B

大区分	評価項目		評価指標	判断理由	根拠資料	評価案
			<input type="checkbox"/> 各学科の入学者は定員の80%を達成できたか。	<p>・認可学科においては、定員の95%を充足した学科はあったが、平均としては定員の70.0%の充足率となった。また、別科においても、定員の80%を充足した学科はあったが、平均としては定員の25.9%の充足率にとどまった。</p>	入学定員と定員充足率	
財務	8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	<input type="checkbox"/> 収入と支出はバランスがとれているか(事業活動収支計算書(公務員)における「経常収支差額」が収入超過であるか)。 <input type="checkbox"/> 負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか(貸借対照表(公務員)における「負債の部合計」が、「現金預金額」に収まっているか)。	<p>・収入超過である。(経常収支差額:(令和5年度)-12,439,590円→(令和6年度)12,926,717円)</p> <p>・収まっており、妥当な数値であることから、中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえる。(現金預金:294,327,174円 負債の部合計:85,851,110円)</p>	前年度事業活動収支計算書 前年度貸借対照表	A
	8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	<input type="checkbox"/> 適切な予算管理を行っているか。 <input type="checkbox"/> 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか。	<p>・予算作成に際して、理事長査定を実施し、適切な予算管理を行っている。【前年度と同様】</p> <p>・行っている(5月に実施)。【前年度と同様】</p>		A
	8-3	財務について会計監査が適正に行われているか。	<input type="checkbox"/> 財務について会計監査が適正に行われているか。	・行っている(5/9監査実施)。	前年度監査報告書	A
	8-4	財務に関する情報公開がなされているか。	<input type="checkbox"/> 財務に関する情報公開がなされているか。	・ホームページの情報公開ページにおいて公開している。【前年度と同様】	ホームページ(法人情報)	A
法令等の遵守	9-1	関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	<input type="checkbox"/> 関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	・学校教育法や専修学校設置基準に定められている規則を遵守し、所轄庁へ必要な書類の提出を行っている。防火・防災マニュアルについては、南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法に基づき、本学の状況に併せて新たな規程を設けた。また、職員・学生には災害に応じた避難場所や経路、行動マニュアルを具体的に提示している。	防火・防災マニュアル	A

大区分	評価項目		評価指標	判断理由	根拠資料	評価案
社会 貢献 ・ 地域 貢献	10-1	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	<input type="checkbox"/> ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に支援・奨励しているか。	令和7年5月～7月にかけて、ボランティア活動の募集を行い、学校周辺のごみ拾いを行った。なお、ボランティア活動は全部で15回実施し、合計約60人の学生が参加した。 また、学生アンケートにおける「学校がボランティア活動を奨励、支援していた。」という質問に対し、70名中59名(84.3%)の学生が「強く思う(24名)」「そう思う(35名)」と回答しており、概ね達成できたと言える。しかしながら、「良くなかった(10名)」「大変良くなかった(1名)」と答えている学生が15.7%いることから、様々なボランティア活動の紹介や支援ができるようにしていく必要がある。	ボランティア活動状況一覧 掃除ボランティア募集 学生アンケート	A
	10-2	高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	<input type="checkbox"/> 高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	・高校進路ガイダンスを32回実施しており、直近3年間の平均28回よりも多く開催しているため、しっかり取組を行ったと言える。	高校進路ガイダンス参加一覧	A

7. 本年度の総合的な評価結果

令和7年度 自己評価	令和6年度 自己評価	理由
3.20	3.04	<ul style="list-style-type: none"> ・25項目中Aが20項目(80.0%)、Bが5項目(20.0%)、Cが0項目(0.0%)、Dが0項目(0.0%)であった。 ・総合的な評価結果については、満点4点に対するA評価の割合(80%)を元に、$4 \times 0.8 = 3.20$点とした。 ・なお、今後取り組むべき課題(重点努力目標)の評価は以下の通りで、学生に関する課題はかなり改善できたものの、教職員に関する課題は改善することができなかった。 「教養重点科新2年コースの構築/SPI対策カリキュラムの構築(3-1)」【A】 「昼間部1次合格率の向上/昼間部突破率の向上(4-1)」【A】 「業務の効率化(2-2)」【B】

8. 今後取り組むべき課題(改善策)

(1) 学生に関すること

課題	具体的な取り組み方法
教養重点科新カリキュラム設置の目的達成 ※目標値 ・突破率90%以上(受験年度のみ)(4-1) ・長欠及び成績不振による昼間部退学率3%以内(5-3) ・入学者数 \geq 定員の80%(7-1)	新規 非受験年度である1年目に開講する「総合学習」および広報活動により、各目的を達成する。 ・「希望職種への最終合格」、「合格率向上」、「人間力向上」については、課外活動や、ボランティア活動、課題解決型学習において、社会人基礎力を含めた人間力を育成し、達成する。 >> 突破率により到達度を検証する。 ・「進路変更の抑制」については、職種別ガイダンス、卒業生講話において、公務員への志望意欲を向上させ、達成する。 >> 退学率により到達度を検証する。 ・「魅力あるキャンパスライフの提供」については、その活動内容をSNSや広報物などにより発信、学生募集活動において活用し、達成する。 >> 入学者数により達成度を検証する。

<p>上級科新カリキュラムの構築と学生募集</p> <p>※目標値 ・一次合格率100%(4-1) ・入学者数≧定員の80%(7-1)</p>	<p>新規</p>	<p>・カリキュラムの構築については、すでに令和8年9月入学生を対象とする募集要項に合わせて、開講時期、開講科目等については検討済み。今後は、改正後のカリキュラムにおける授業コマ数を算出し、各教科担当者が授業計画を構築する。また、さらに次の募集要項に向けては、近年の公務員採用試験における出題数や出題頻度、受験生の志望度などを鑑み、開講科目の見直しを含め、競合他校と比べても魅力的でかつ、より合格に直結するカリキュラムの検討を進める。</p> <p>・学生募集については、カリキュラム改正の目的である「早期対策」「SPI対策」を広報物等においても明記し、コース毎の繋がりを意識した「履修モデル」の提示と併せて、学生募集活動を行う。</p>
<p>昼間部1次合格率の向上</p> <p>※目標値 ・一次合格率100%(4-1)</p>	<p>継続</p>	<p>・初級主任・上級主任を中心として、今年度の1次合格に関する分析結果をもとに、必要に応じてカリキュラムや受験指導について対策を講じる。</p> <p>・各クラス担任は、模擬試験の結果や生活態度などから学生の筆記試験に対する理解度・公務員試験に対するモチベーションを把握し、必要に応じて自習や科目担当者への質問を促したり、面談を実施したりするなどの対策を講じる。</p> <p>・各科目担当教員は、小テストや模擬試験などで担当する教科に対する学生の理解度を把握し、必要な対策を講じる。</p>
<p>昼間部突破率の向上 ※突破率＝最終合格者数/1次合格者数</p> <p>※目標値 ・突破率90%以上(4-1)</p>	<p>継続</p>	<p>・初級主任・上級主任を中心として、今年度の人物試験に関する分析結果をもとに、必要に応じて学校が行う人物試験対策について対策を講じる。</p> <p>・各クラス担任は、各クラスで行う面接指導を通して、各学生が職業探求や自己分析を行うよう指導する。また、身だしなみや基本動作などについても、日常から意識させる。</p> <p>・これまでの模擬面接の指導回数の上限を撤廃(メンター制度も撤廃)し、全ての学生に対して、各面接担当教員が、学生の課題を把握し、入学直後から計画的に必要な対策を講じる。</p>

(2)教職員に関すること

課題	具体的な取り組み方法	
<p>(評価項目2-2より) 「業務の効率化」</p>	<p>継続</p>	<p>・校長は、教職員の働き方を見直し、今後の採用活動の妨げになる可能性のある「土曜出勤」を「週休2日制」とできるよう調整する。</p> <p>・校長は、業務を教育理念体系に基づき、整理し、見直しを図る。</p> <p>・各担当者が自身の業務については常に引き継ぎ書を作成・更新し、常に効率化を検討する。</p>